

事業内容:防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
学校防災アドバイザー活用事業の実施

題 名:実践的防災教育総合支援事業(命の大切さを考える防災教育公開事業)
(防災ボランティア)

ー地域と連携した防災教育への取り組みー

所属・電話番号:千葉県立清水高等学校・04-7122-4581

校長 中山 公央

1 実施事業

(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施

(2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

本校は、千葉県教育委員会より、「命の大切さを考える防災教育公開事業」の指定を受け、「防災ボランティア」という課題で、学校が地域・地域行政・小中学校・企業・大学等と連携した、防災体制の確立を図った。

(1) 地震と火災を想定した、学校と地域住民等との避難訓練の実施及び防災マニュアルの作成。

(2) ソーラークッカー等の防災用品の研究、準備、制作及び大会実施を通して、防災意識の向上を図る。

3 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参 加 者
4月	○第1回校内防災担当者会議	本校職員
5月	○第1回地域合同避難訓練	本校生徒、職員、地域自治会
	○職員研修会	本校職員
	○第1回担当者連絡会議	担当者
	○全校講演会	本校生徒、職員

	○第2回校内防災担当者会議	本校職員
6月	○緊急連絡手段の整備(メール)	本校職員、保護者
7月	○ソーラークッカーグランプリ大会参加者エントリー	本校生徒、職員、PTA、外部参加者
8月	○帰宅困難者宿泊訓練	本校生徒、職員、日本赤十字社
9月	○第3回校内防災担当者会議	本校職員
	○第33回野田市総合防災訓練	本校生徒、職員
	○ソーラークッカーグランプリ大会	本校生徒、職員、PTA、外部参加者
	○第2回担当者連絡会議	担当者
10月	○eco-1グランプリ大会参加(第1次審査)	本校生徒、職員
11月	○防災講話(文化祭時)	公開
	○eco-1グランプリ大会参加(第2次審査)	本校生徒、職員

12月	○e c o-1 グランプリ大会参加(全国大会) ○第2回地域合同避難訓練(火災避難、防災体験、公開LHR) ○第3回担当者連絡会議 ○第4回校内防災担当者会議	本校生徒、職員 本校生徒、職員、PTA、同窓会、地域自治会 担当者 本校職員
-----	---	---

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	辰馬 令	千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室 主幹兼室長
2	宮内 輝久	千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室 指導主事
3	下岡有希子	野田市教育委員会教育長
4	平野 紀幸	野田市役所民政経済部市民生活課長
5	中条 祐一	足利工業大学教自然エネルギー・環境学系教授
3	茂木 義資	清水地区自治会長
4	横張 幸子	千葉県立清水高等学校 PTA
5	齋藤 文秀	キッコーマン株式会社 交際食文化研究センター長
6	中山 公央	清水高等学校 校長
7	荒木 邦彦	清水高等学校 教頭
8	井上 厚	清水高等学校 事務長
9	中田 勝三	清水高等学校 教諭

10	小川 豊明	清水高等学校 教諭
11	細谷 敏弘	清水高等学校 教諭

5 具体的な取組

(1) 地域合同避難訓練及び防災体験

① 第1回避難訓練

ア 目的

学校火災などの非常時の状況下に備え、整然かつ迅速な避難を訓練し、全校生徒及び職員の防災意識の向上を図る。さらに、地域自治会の方との防災に対する意識の共有を図る。

イ 日時

平成26年5月15日(木)

ウ 対象

本校生徒、職員、地元自治会参加希望者

エ 実施内容

避難訓練は、地震発生とそれに伴う火災を想定し実施した。地震は「緊急地震速報による警告」による予知、つづいて、地震発生、さらに、地震発生に伴う火災を仮定した。

地域自治会の方も、災害発生時刻に合わせて本校に避難した。訓練終了後に本校職員と地域自治会の方で、災害時における相互理解のための話し合いを実施した。



【第1回地域合同避難訓練】

② 第2回避難訓練及び防災体験

ア 目的

災害発生時に、自分の命を守るための正確で迅速な行動ができること。さらに、避難袋による降下訓練、消火器訓練、煙体験等を体験することにより、災害時に適切な行動を取れる能力と態度を育成する。

イ 日時

平成26年12月18日(木)

ウ 対象

本校生徒、職員、PTA、同窓会、地元自治会参加希望者

エ 実施内容

(ア) 避難訓練

地震と地震による火災を想定して訓練を実施した。災害発生時に、クラス単位で自分達の命を守るための正確で迅速な避難行動がとれることを目指した。地域自治会の方々も災害想定時間に合わせ、本校避難指定場所(グラウンド)に避難した。最後に野田消防署中央分署長風見様より避難時の留意事項について指導いただいた。



【第2回地域合同避難訓練】

(イ) 防災体験

1年生は救助袋を用いた降下訓練、2年生は消火器体験、3年生は煙体験を実施した。北風が吹き非常に厳しい気象条件であったが、生徒は意欲的に体験に参加した。また、地域住人の方々には、煙体験及び野田消防署の方から救急自動車内の装備、ス

トレッチャー体験、災害を受けた方の救命法等について指導いただいた。



【降下訓練】

【消火器験】



【煙体験】

【救命法の説明】

(2) 職員研修会

① 目的

本事業内容の1つであるソーラークッカーグランプリ大会を実施するにあたり、太陽光を利用した調理器具であるソーラークッカーの役割、構造、防災用品としての利用方法等の知識・技術を習得する。

② 日時

平成26年5月21日(水)

③ 対象

本校職員

④ 実施内容

足利工業大学自然エネルギー・環境学系主任教授の中条祐一先生を講師に招き、全世界でのソーラークッカーの利用状況やパキスタン震災地でのソーラークッカーの実演など、太陽光を利用した調理器具であるソーラークッカーの役割、構造、防災用品としての利用方法について講話をいただいた。さらに、効果的な防災事業としての取り組み方の助言をいただいた。



【職員研修会】

(3) 全校講演会

① 目的

本校生徒が防災用品としても利用可能なソーラークッカーの役割、利用方法、製造方法などを学ぶことにより、防災意識を高める。

② 日時

平成26年5月26日(月)

③ 対象

本校生徒、職員

④ 講師

足利工業大学自然エネルギー・環境学系主任教授 中条 祐一 先生

⑤ 実施内容

ソーラークッカーの利用・構造・特徴等を、世界の環境問題、防災対策の観点から講話いただいた。さらに、高校生が簡単に制作するための手法や効率的な利用方法、成果の普及方法について講演をしていただいた。

(4) ソーラークッカーグランプリ大会

① 目的

地域の企業・学校・教育委員会等と連携し、本校の研究課題の一環として「防災と命の大切さを考える」、「環境と食文化の関わりを考える」を推進する。

② 日時

平成26年9月6日(土)

③ 対象

本校生徒、職員、PTA、外部参加者

④ 実施内容

当初8月9日(土)に開催予定であったが台風接近に伴う悪天候のため9月6日(土)に延期した。これに伴い、近隣小中学校の参加が減少したが、本校10チーム、野田中央高校2チーム、野田第一中学校1チーム、本校OBチーム、PTAチームの計15団体の参加があった。競技内容は、湯沸いた一部門(お湯を沸かす)で実施した。競技終了後体育館にて表彰式および本校食品科学科チームの課題に取り組む代表プレゼンテーションを実施した。



【ソーラークッカーグランプリ大会】

(5) 帰宅困難訓練合宿

① 目的

災害に伴い帰宅困難が発生したとの想定にもとづき、生徒の対応について課題や問題点を検証する。

② 日時

平成26年8月23日(土)、24日(日)

③ 対象

本校生徒(科学研究部、サッカー部)

④ 講師

日本赤十字千葉支部
小島 久子 氏、ペティト タク 氏
銚子地方気象台 内山 秀明 氏

⑤ 実施内容

ア 8月23日(土)

(ア) 講演①「災害とわたしたち」

実際の銚子地方気象台提供資料にもとづき災害の軽減、自助・共助・公助について実例をもとに講演を受ける。

(イ) 講演②「災害における被災地（避難場所）の実際について」

東日本大震災の支援を医療救護班、心のケアコーディネーターとして実際に体験し、その経験から、ボランティア活動での留意点について講話を受ける。

(ウ) 演習「災害時におけるボランティア活動について」

グループワークトレーニングゲームを用いて、活動における他者との協力の重要性や高校生による活動計画に必要な学習とは何か、平時の備えとしてできる活動は何か、などを参加者全員で話し合った。

イ 8月24日（日）

a ハザードMAP作成

生徒が予想される避難経路の危険予測場所を現地調査し、マップを作成した。

b 本校に備蓄されている備蓄非常食の調査及び搬出のシミュレーション



【講演】



【演習】



【ハザードMAP】



【備蓄品搬出訓練】

(6) 担当者連絡会議

① 目的

本事業を遂行するに当たり、事業の計画・準備・内容等についての確な指導助言をいただき、成果のある事業が実践できること。さらに、実施結果に問題点、改善点を確認し今後の継続的な活動に役立てる。

② 日時

平成26年5月21日（水）、9月6日（土）12月18日（木）

③ 対象

担当者

④ 実施内容

(ア) 5月21日（水）

事業の計画・準備・内容等について話し合いの確な指導・助言をいただいた。

(イ) 9月6日（土）

ソーラークッカー大会の総括及び今後の普及活動に対する助言をいただいた。

(ウ) 12月18日（土）

- ・避難訓練、防災体験、公開LHRの見学
- ・事業経過説明
- ・野田市の防災について
野田市市民生活課 生島 弘幸 氏
- ・全体協議
- ・指導・助言

千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室 主幹兼室長 辰馬 令 氏
千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課安全室 指導主事 宮内 輝久 氏



【担当者連絡会議】

(7) 公開授業

① 目的

災害から身を守る対応力を育成する。

② 日時

平成26年12月18日(木)

③ 対象

本校生徒(全クラス)、研究協議会参加者

④ 実施内容

災害に遭遇した場合の対処法(自助・共助・公助)について、事例ごとにグループに分かれて話し合った。



【授業の様子①】

【授業の様子②】

(8) その他の活動

① 緊急連絡網の整備

従来の電話による職員・生徒緊急連絡網に加え、災害時に確実に連絡が取れるよう、無料メール配信サービスを利用した緊急連絡網を整備した。

② 野田市避難訓練への参加

平成26年9月1日(月)に実施された第33回野田市総合防災訓練に参加した。

③ eco-1グランプリ大会への参加

本校食品科学科チームが参加し、予選を勝ち抜き首都圏代表として12月13日に開催された第3回全国大会に出場し、見事奨励賞に輝いた。



【eco-1全国大会】【野田市防災訓練】

6 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・今年度実施したさまざまな防災活動により、生徒の防災意識が高まった。
- ・地域自治会との合同避難訓練を実施して、本校の防災に対する取り組みが理解され、地域との意識の共有ができた。
- ・太陽光を利用した調理器具であるソーラークッカーを、防災活動に取り入れたことにより、本校の専門高校(農業・工業)としての教育内容や生徒の積極的な取り組みが喚起でき、生徒の防災意識の向上が見られた。
- ・さまざまな取り組みが、新聞、テレビ等のメディアに取り上げられ、清水高校の防災活動が広く地域や社会に理解された。

(2) 課題

- ・本年度のさまざまな防災活動での取り組みで、全体的には防災意識が高まった。しかし、意識の低い生徒や訓練慣れした生徒も見受けられる。実際に災害に遭遇した場合を想定すると、本年度学んだ知識・体験を継続的に高めていく取り組みが重要である。
- ・地域に根ざした防災活動を推進するにあたり、野田市と避難所指定に向けて協議を進めている。今後、行政機関との共通理解を図りながら「避難所開設マニュアル」「避難所運営マニュアル」等の作成が急務である。
- ・ソーラークッカーを用いた防災活動は、生徒の取り組みも良く、本年度広く認知された。今後、今年度の反省を踏まえ、継続的に活動し、研究成果を地域や社会に発信していくことが重要である。